

平成27年9月関東・東北豪雨災害

地域と共に…

～社協の支援活動～

《大崎市災害ボランティアセンター事業報告書》

社会福祉法人 大崎市社会福祉協議会

はじめに

社会福祉法人
大崎市社会福祉協議会
会長 遠藤 敏榮



平成27年9月11日午前3時20分、宮城県に対して大雨特別警報が気象庁より発令され、大崎市においても夜明けにかけて浸水・土砂災害の発生が相次いで報告される中、古川地域を流れる渋井川などが破堤し、古川地域を中心に大規模な浸水被害に遭いました。

あれから1年が経過しておりますが、被害に遭われました皆様方に、改めまして心よりお見舞い申し上げます、一日も早い復旧・復興を切にお祈りいたします。

また、この度の「平成27年9月関東・東北豪雨災害」に伴う災害ボランティアセンター運営に対しまして、人的協力、物資の提供や支援金のご厚意、ボランティア活動協力等、多くの皆様方の多大なるご尽力、ご支援、ご協力を賜りましたことに改めまして心より深く感謝申し上げます。

本会は発災当時、災害対策本部において検討協議を行い、大崎市からの要請に基づき、11日午後3時に大崎口腔保健センターを本部として、大崎市災害ボランティアセンターを立ち上げ、その後、10月3日までの23日間にわたり運営支援を頂いた皆様方とともに、宮城県内を中心に全国から駆け付けて頂いたボランティアさんの協力のもと、災害復旧活動を展開して参りました。

特に今回の災害に至るまで、本会は「東日本大震災」を契機に「防災計画」策定、「災害派遣福祉・介護チーム」設置、「災害時相互支援協定」締結などに基づき、大規模災害時における支援体制の充実強化、災害支援活動を担う派遣職員の養成研修や体制強化に積極的に取り組んできたこともあり、こうして培ってきた事業活動の経験やボランティア・関係団体等からの協力支援により、被災住民に寄り添った「社協らしい福祉型」の災害ボランティアセンターの運営を行うことができたのではないかと考えております。

さらには、今回の経験を教訓に、こうした事業活動の振り返りを行い、災害ボランティアセンターの果たすべき役割をもう一度考えるとともに、平時から社会福祉協議会が果たすべき地域福祉の推進について、各地域での在るべき姿に繋がればと考えております。

今後も、市民の皆様方と手を携えながら、役職員一丸となって、これまでの災害の復興事業、更なる地域福祉の推進に努めて参りますので、地域住民の皆様、各種関係機関等のご支援、ご協力をお願い申し上げますとともに、本紙の発刊にあたり、ご支援、ご協力を頂きました関係各位に対しまして、心から感謝を申し上げ、ごあいさついたします。

発刊に寄せて

大崎市長
伊藤 康志



大崎市災害ボランティアセンター事業報告書の発刊、心からお喜び申し上げます。

「平成27年9月関東・東北豪雨災害」により大崎市では、洪井川などの破堤が重なり、床上・床下浸水など約700棟にも及ぶ甚大な被害が発生いたしました。被災された皆様には、改めて深くお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復興を心からお祈り申し上げます。

大規模な豪雨災害の中であって、災害ボランティアセンターにおきましては、2か所にサテライトセンターを設置し、23日間の長期間にわたり、1,200名を超えるボランティアの受け入れや地域ニーズの把握、福祉訪問調査活動などを行い、包括的に被災された方々の支援に、献身的に努めていただきました。

お陰様をもちまして、復旧・復興が加速し、被災された皆様からはたくさんの感謝やお礼の言葉をいただきました。本災害により活動をいただいたボランティアの皆さんを始め職員各位に、心から感謝申し上げます。

地域の絆が希薄化する中であって、共助の精神のもと、自発的に活動をいただくボランティアの姿は非常に尊いものがございます。本市といたしましても、市民の自主性や自発性を尊重しつつ、誰もが気軽にボランティア活動に参加できるよう、これからも機会を捉えて、積極的に支援をして参ります。

結びに、本報告書の発刊が災害ボランティア活動のより一層の発展につながり、減災に主眼をおいた安全・安心なまちづくりのために、「自助」「共助」「公助」が適切に役割分担されている、防災協働社会の実現が図られるよう心からご祈念し、お祝いの言葉といたします。



Contents

平成27年9月関東・東北豪雨災害

地域と共に…

～社協の支援活動～

●はじめに	社会福祉法人大崎市社会福祉協議会 会長 遠藤 敏榮	2
●発刊に寄せて	大崎市長 伊藤 康志	3
01	被害状況について	5
02	災害ボランティアセンターの運用について	7
●	大崎市災害ボランティアセンター開設	8
●	大崎市災害ボランティアセンター各班の役割	9
●	大崎市災害ボランティアセンター運営体制図	11
●	大崎市災害ボランティアセンター運営実績	12
●	大崎市災害ボランティアセンター運営・活動支援団体	14
03	災害時の支援体制について	17
●	ブロック社協等支援一覧	18
04	支援物資・支援金等寄付者ご芳名	23
●	支援物資・支援金等 提供一覧	24
05	福祉的災害ボランティアセンターを目指して	27
●	大崎市災害ボランティアセンターの取り組み	28
06	災害ボランティア活動の振り返り	33
●	災害ボランティアセンターの活動風景	34
●	ご支援・ご協力頂いた皆さんからの声	39
●	大崎市災害ボランティアセンター活動報告会	41
●	各セクションから振り返った災害ボランティアセンター	42
●	むすびに	46
	社会福祉法人大崎市社会福祉協議会 常務理事兼事務局長 本田 民夫	

01

被害状況について



平成27年9月関東・東北豪雨災害

【気象状態】

平成27年9月7日に発生した台風第18号は、9月9日午前10時過ぎに愛知県の知多半島付近に上陸し、本土を横断した後に日本海へ進み、同日午後9時に温帯低気圧に変わりました。日本海を北上するこの温帯低気圧と、日本の東海上(太平洋)にある台風第17号の影響で、関東地方北部から東北地方南部にかけては線状降水帯が発生したことによる記録的な豪雨に見舞われ、大小多くの河川が氾濫するなどにより甚大な災害が発生しました。

【降水調量】(北上川下流河川事務所観測)

大崎観測所(江合川) 総雨量：194.0ミリ
3時間雨量：98.0ミリ(観測史上：1位)
※9月11日 1:00～4:00

小野田観測所(鳴瀬川) 総雨量：235.0ミリ
3時間雨量：108.0ミリ(観測史上：1位)
※9月11日 0:00～3:00

嘉太神観測所(吉田川) 総雨量：354.0ミリ
3時間雨量：125.0ミリ(観測史上：3位)
※9月10日 22:00～ 9月11日 1:00

【破堤状況】

「渋井川」「渋川」「名蓋川」の3河川において、合計9カ所の破堤

【特別警報制度】

「大雨特別警報」(9月11日午前3時20分発令)
※平成25年8月の制度開始後、東北地方では初めて

【家屋の被害】

<速報値> 床上浸水：205棟
床下浸水：490棟
<り災判定> 大規模半壊：33棟
半壊：366棟
一部損壊：150棟

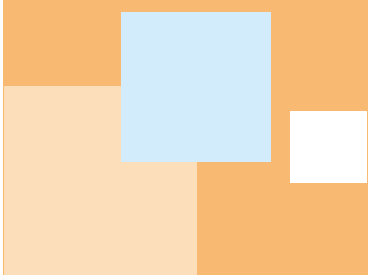
【農業関連被害】

農作物：2,663ha

※『大崎市の水害記録』より一部抜粋

災害ボランティアセンターの運用について

02



≫大崎市災害ボランティアセンター開設

【大崎市災害ボランティアセンターの運営】

『大崎市地域防災計画』（平成25年10月改定）における、〔第2編震災対策編第16節ボランティア活動〕及び〔第3編風水害など災害対策編第20節ボランティア活動〕の中で大規模な災害が発生したときには、大崎市社会福祉協議会等が中心となって、速やかに災害ボランティアセンターを設置し、全国から駆けつける災害ボランティアの活動を支援、調整し、被災住民の生活復旧を図る。また、専門的なボランティアニーズに対しては、市が災害ボランティアセンターとの連携を図りつつ対応する」とあります。このことを踏まえ、平成27年9月11日午後2時に大崎市より、大崎市災害ボランティアセンターの設置要請に基づき、同日午後3時に設置しました。

1. 大崎市災害ボランティアセンター開所日数	23日間
【平成27年9月11日（金）～平成27年10月3日（土）】	
※9月18日は雨天の為、ボランティア受け入れ及び派遣は中止としました。	
・ 矢目サテライトボランティア活動	11日間
【平成27年9月13日（日）～平成27年9月23日（水）】	
・ 古川南サテライトボランティア活動	10日間
【平成27年9月14日（月）～平成27年9月23日（水）】	
2. 被災された方々から寄せられたニーズ	127件
3. 支援ニーズ件数	211件
4. ボランティア受付数	1,084人
（内訳）個人ボランティア325人 団体ボランティア105団体759人	
5. ボランティア派遣数	延べ1,242人
6. 応援社協派遣職員数	延べ343人
7. 応援団体関係人数	支援P：延べ37人 日 赤：延べ54人 J C：延べ26人
8. 被災地域別個別訪問（ローラー）調査件数	
高 倉（矢目・北谷地）	176件
志 田（東田・西荒井・保柳）	428件
古川東（土手内・前田・米袋）	288件
9. DCATによる福祉ニーズ訪問調査件数	41件

≫大崎市災害ボランティアセンター各班の役割

【災害ボランティアセンター本部】

本部機能として、災害ボランティアセンター運営全体の取りまとめに関する業務を担い、各セッションが効果的に機能するように全体ミーティング等を行ったり、災害ボランティアセンターとしての方針を決定していくことが主な役割でした。また、行政等の関係機関との連絡調整を行うとともに、対外的な窓口としての機能も果たしました。



災害ボランティアセンター朝礼

【矢目・古川南サテライト】

被災状況が明らかになるにつれ、河川の決壊等による被害と共に復旧状況から支援が長期に及ぶものと想定される地域に対して、効率的にボランティア活動が展開していくことを目的に、カインズホーム古川店様の協力により古川南サテライト、古川矢目地区の協力により矢目サテライトをそれぞれ設置し、9月23日に閉所されるまで、本部機能に加えてローラー班、マッチング班などが設けられ、より細やかな対応に努めました。

被災地域と災害ボランティアセンター本部との連絡調整、支援地域におけるニーズ調査、本部で受けた被災者からのボランティアへの支援ニーズと、ボランティア希望者との間の活動調整などの機能を果たしました。



矢目サテライト活動風景



古川南サテライト活動風景

【総務班】

広報、データ管理を主な役割として、災害ボランティアセンターに関するあらゆる情報整理や広報活動を行いました。具体的には、被災・復旧状況などに関する情報の収集・提供とともに、ホームページなどを活用し、被災者及びボランティアに向けた災害ボランティアセンターの活動状況などの発信、市民からの貴重な寄付金品の受領、資器材の調達、全体ミーティングの進行など災害ボランティアセンター内外に対する情報管理機能の役割を果たしました。



災害ボランティアセンター全体会議

≫ 大崎市災害ボランティアセンター各班の役割

【コール班】

災害ボランティアセンターに対する問い合わせ対応や被災者等からの電話によるニーズ受付、ボランティア活動を希望する方や団体からの受付などを行いました。

受付した内容に応じて、各班やサテライトなどへ情報を繋ぎ、災害ボランティアセンター外から寄せられる情報の窓口としての機能を果たしました。



支援ニーズ・ボランティアの受付

【ボランティア受付班】

災害ボランティア活動希望者の受付やボランティア保険の受付をし、基本的なオリエンテーションのほか、各サテライトへの送り出しや迎え入れ、活動報告書の受取りなどが主な役割でした。

また、上記役割の他、遠くから駆けつけて頂いたボランティアの方々に対する災害ボランティアセンターの活動状況を知って頂くために、活動実績の掲示物作成や大崎市内観光マップの作成など、ボランティアの皆さんに気持ち良く活動頂くために、活動ボランティアにとっての窓口としての機能を果たしました。



ボランティア受付・ボランティア保険加入受付



ボランティア待機所

【ニーズ・マッチング班】

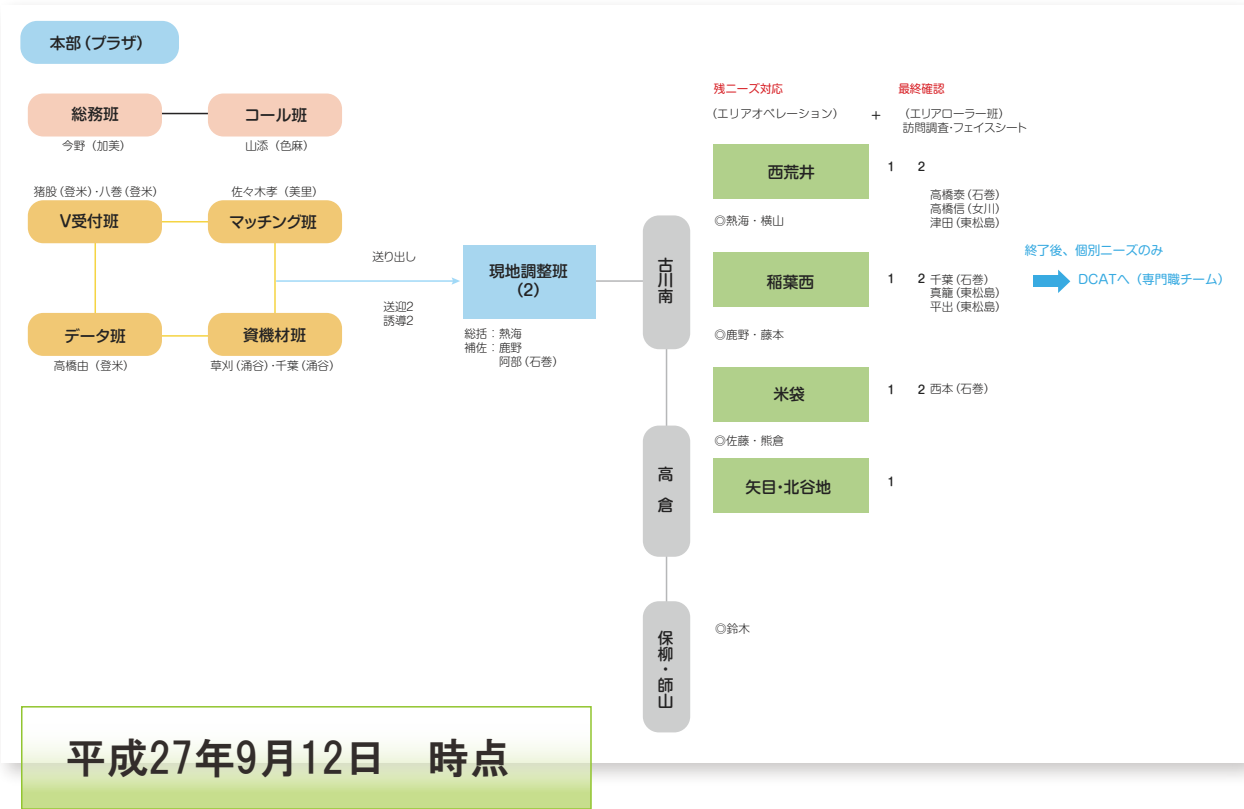
把握した被災者からのボランティアへの支援ニーズと、各サテライトに対するボランティア希望者との間の活動調整を主な役割とし、他にも各班・サテライト間との調整、不確かなニーズ情報の再確認、資器材の調達などを行いました。



ボランティアに向けたオリエンテーション

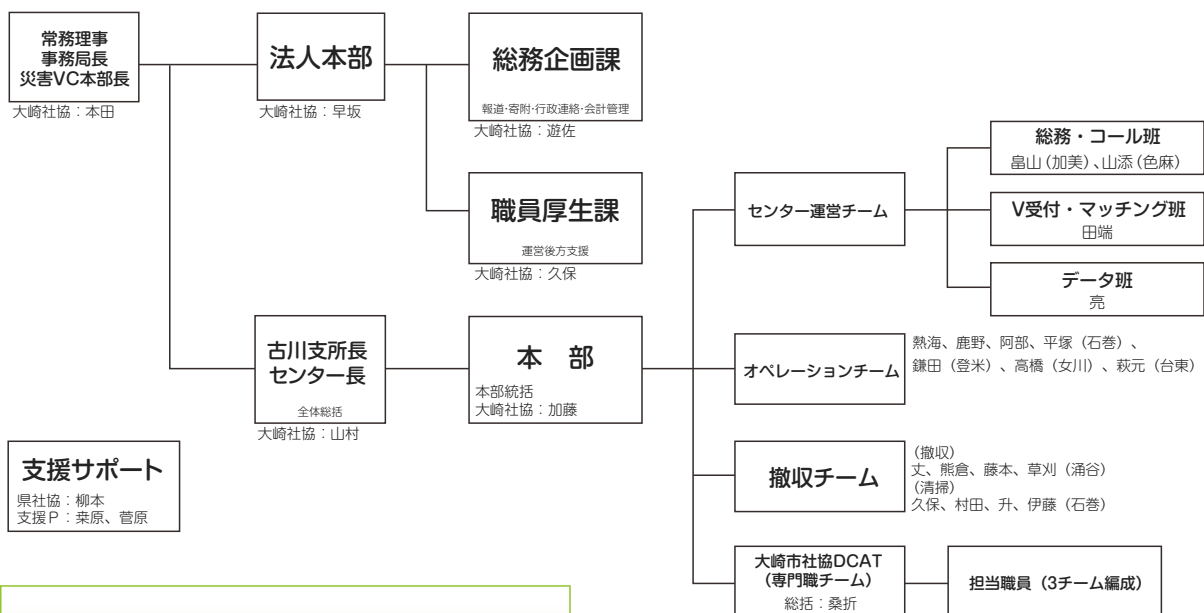
大崎市災害ボランティアセンター運営体制図

本部機能とサテライト機能を併せ持つ今回の災害ボランティアセンターでは、支援の進み具合により形態を随時変更し、開設当初はサテライト優先の人員配置から、閉所を見定めながら本部機能に集約しつつ、通常の社協が有するボランティアセンター業務に移管することを意識した体制としました。



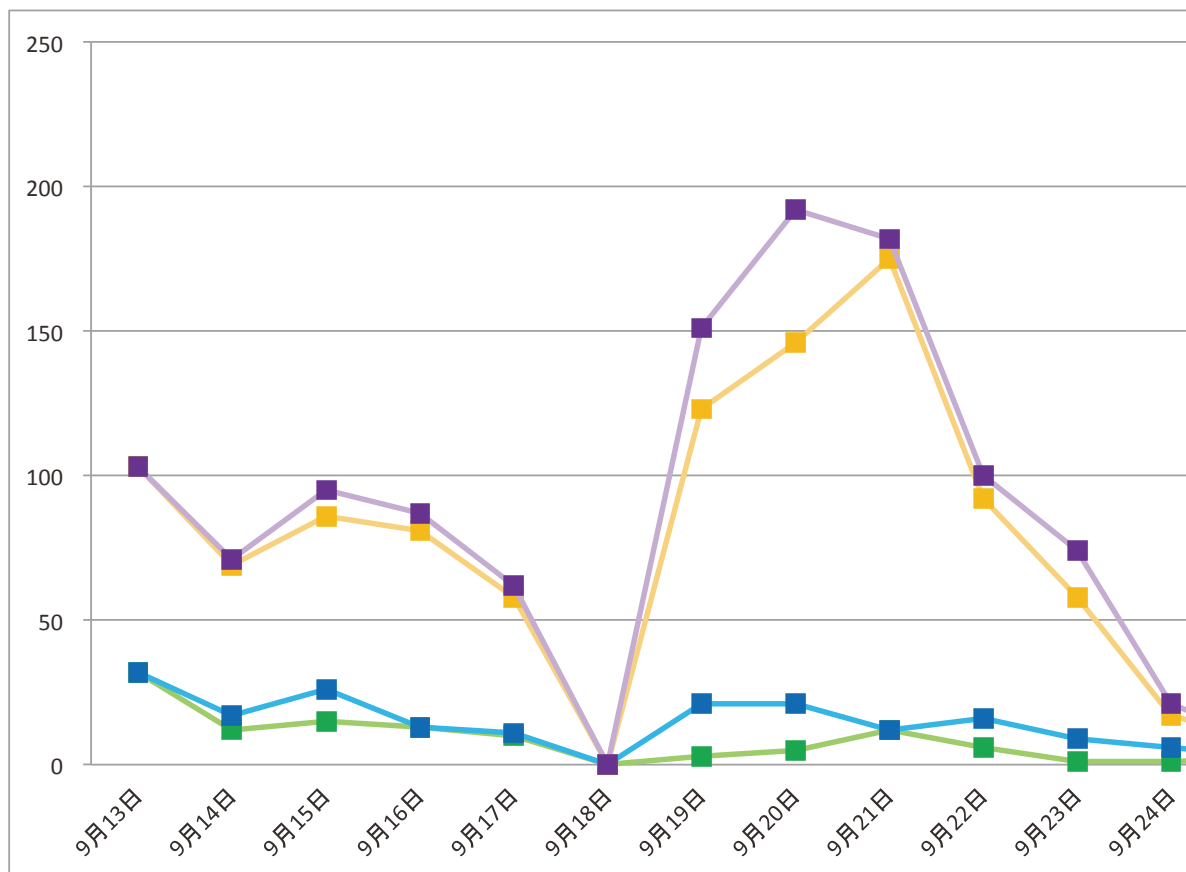
【大崎市災害ボランティアセンター組織体制図】

平成27年10月3日 (土) 現在

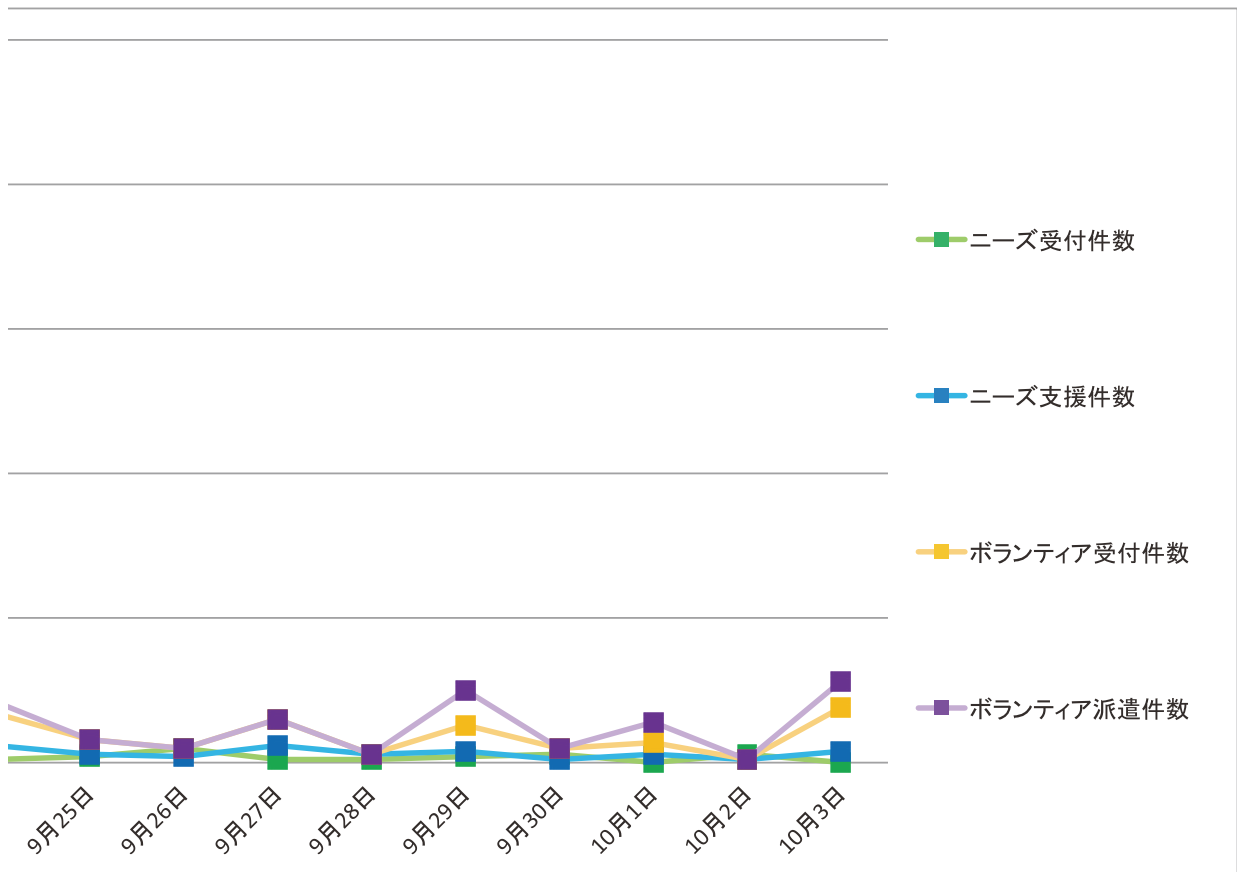


大崎市災害ボランティアセンター運営実績

実績(日単位)	1日目		2日目		3日目		4日目		5日目		6日目		7日目		8日目		9日目		10日目		11日目	
	9月11日		9月12日		9月13日		9月14日		9月15日		9月16日		9月17日		9月18日		9月19日		9月20日		9月21日	
	団体	人数	団体	人数	団体	人数	団体	人数	団体	人数	団体	人数	団体	人数	団体	人数	団体	人数	団体	人数	団体	人数
ボランティア受付数(人)	0	0	0	0	4	103	4	69	8	86	7	81	6	58	0	0	14	123	12	146	21	175
市内個人	/	/	/	/	/	41	/	16	/	20	/	22	/	11	/	0	/	11	/	14	/	13
市内団体	/	/	/	/	2	56	0	0	1	5	1	5	1	3	0	0	2	8	1	3	2	12
市外個人	/	/	/	/	0	/	13	/	14	/	12	/	24	/	0	/	18	/	32	/	20	
市外団体	/	/	/	/	2	6	4	40	7	47	6	42	5	20	0	0	12	86	11	97	19	130
	9月11日		9月12日		9月13日		9月14日		9月15日		9月16日		9月17日		9月18日		9月19日		9月20日		9月21日	
ニーズ受付件数(件)	/	/	/	/	32	12	15	13	10	0	3	5	12									
ニーズ支援件数(件)	/	/	/	/	32	17	26	13	11	0	21	21	12									
ボランティア受付件数(人)	/	/	/	/	103	69	86	81	58	0	123	146	175									
ボランティア派遣件数(延べ人)	/	/	/	/	103	71	95	87	62	0	151	192	182									
備考	災害VC設置		サテライト準備		矢野サテライト受入		古川南サテライト受入						雨天中止									



12日目		13日目		14日目		15日目		16日目		17日目		18日目		19日目		20日目		21日目		22日目		23日目		合 計	
9月22日		9月23日		9月24日		9月25日		9月26日		9月27日		9月28日		9月29日		9月30日		10月1日		10月2日		10月3日		合 計	
団体	人数	団体	人数	団体	人数	団体	人数	団体	人数	団体	人数	団体	人数	団体	人数	団体	人数	団体	人数	団体	人数	団体	人数	団体	人数
6	92	7	58	2	17	1	8	1	5	3	15	1	3	2	13	1	5	2	7	0	1	2	19	104	1,084
/	5	/	3	/	1	/	0	/	0	/	1	/	2	/	1	/	1	/	1	/	1	/	1	/	165
2	35	2	15	0	0	0	0	0	0	1	3	0	0	1	6	0	0	1	2	0	0	0	0	17	153
/	11	/	7	/	1	/	0	/	1	/	4	/	0	/	0	/	0	/	0	/	0	/	3	/	160
4	41	5	33	2	15	1	8	1	4	2	7	1	1	1	6	1	4	1	4	0	0	2	15	87	606
9月22日		9月23日		9月24日		9月25日		9月26日		9月27日		9月28日		9月29日		9月30日		10月1日		10月2日		10月3日		合 計	
6		1		1		2		5		1		1		2		3		0		3		0		127	
16		9		6		3		2		6		3		4		1		3		1		4		211	
92		58		17		8		5		15		3		13		5		7		1		19		1,084	
100		74		21		8		5		15		3		25		5		14		1		28		1,242	
	サテライト 開 所																					災害VC 開 所			



災害時のネットワーク機能により、 様々な団体様より運営に対してご支援を頂きました。

【公益社団法人 おおさき青年会議所】

大崎市災害ボランティアセンター開設時より運営支援に携わって頂き、特に古川南サテライトの設置場所選定においては、複数検討された候補地の中でカインズホーム古川店様への依頼など、設置に向けて尽力くださいました。また、閉所を迎えるまで全国の青年会議所様とのネットワークを活かし、連日各地よりボランティア人員の派遣を調整頂くなど、当センターと一体となる支援を頂きました。



【日本赤十字社 宮城県支部】

大崎市災害ボランティアセンター古川南サテライト開設時より運営支援に携わって頂き、主に活動を行うボランティアに対する衛生管理の面においてご支援頂きました。

災害ボランティアセンターへの常駐並びに運営においての連携実績は全国的にも珍しく、災害ボランティアセンター運営における今後の在り方として注目される支援となりました。



【災害ボランティア活動支援プロジェクト会議】

災害ボランティア活動支援プロジェクト会議(支援P)は、災害企業・社会福祉協議会・NPO・共同基金会在が協働するネットワーク組織であり、9月11日から先遣調査者を派遣頂き、当センターとの調整を通じて、9月12日から運営支援者を派遣頂きました。

具体的には、

- (1) 災害ボランティアセンター支援
- (2) 活動団体助成(委員構成団体・関係団体との連携事業)
- (3) 協働コーディネーションなど

災害ボランティア活動の環境整備などに尽力頂きました。



【トヨタ自動車東日本株式会社】 【一般社団法人日本カーシェアリング協会】

大崎市災害ボランティアセンターにおいて、ボランティアの活動先までの送迎やニーズ調査、サテライト間での連携、その他関係機関との連絡調整の際などに公用車が必要となる事から、両支援団体より当センターとして使用が出来る車両の提供を受けたことにより、運営をスムーズに行うことが出来ました。



【富士フイルムビジネスサプライ株式会社】

大崎市災害ボランティアセンターにおいて、様々な情報をセンター従事者間で共有したり、ボランティアさん向けに発信する際に、掲示物等を大きく拡大することができる「ポスタープリンター」を寄贈頂きました。

また、他のボランティアセンターでの活用事例等も指導頂き、活用することで周知・啓発が効果的に実施できました。



渋井川(荒)の堤防決壊

ボートで助け出される住民たち(1)15日午前0時ごろ、大崎市内福葉の国道4号橋



大雨の影響

一時400世帯1000人孤立 栗原で1人死亡1人不明

台風18号の影響により、大崎地方各県北地方は10日から11日にかけて大雨となり、各地で浸水した。栗原市の被害が深刻で、大崎市内の国道4号橋は渋井川の堤防が決壊し、大崎市内栗原地区が孤立した。大崎市内栗原地区は、国道4号橋が浸水し、自家用車が取り残され、住民が孤立した。大崎市内栗原地区の町役場に連絡を出したが、三本木地区と栗原地区の一部で連絡が途切れ、孤立した。住民が不安を覚える中、大崎市内栗原地区で1人死亡、1人不明の被害が出た。

大崎市内栗原地区は、国道4号橋が浸水し、大崎市内栗原地区が孤立した。大崎市内栗原地区は、国道4号橋が浸水し、大崎市内栗原地区が孤立した。大崎市内栗原地区は、国道4号橋が浸水し、大崎市内栗原地区が孤立した。

2015年9月12日付

大崎地方500世帯浸水

東日本豪雨 田畑1778ha冠水(大崎)

台風18号の影響による大雨で、大崎地方は合計約500世帯が床上浸水した。浸水した世帯は、約500世帯に達した。大崎地方は、台風18号の影響による大雨で、大崎地方は合計約500世帯が床上浸水した。浸水した世帯は、約500世帯に達した。

大崎地方は、台風18号の影響による大雨で、大崎地方は合計約500世帯が床上浸水した。浸水した世帯は、約500世帯に達した。

大崎地方は、台風18号の影響による大雨で、大崎地方は合計約500世帯が床上浸水した。浸水した世帯は、約500世帯に達した。

大崎地方は、台風18号の影響による大雨で、大崎地方は合計約500世帯が床上浸水した。浸水した世帯は、約500世帯に達した。



濁流に流された住居は、一夜明けで浸水が疑われた(12日午前9時ごろ、西栗井地区)

2015年9月13日付

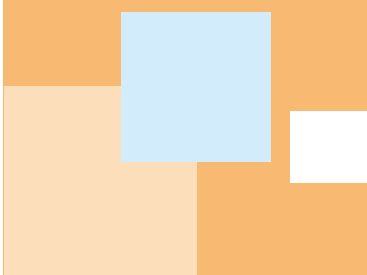


「信じられない災害だ」
大崎市内栗原地区、住みかた後片付けに汗をかいた。一夜明け、大崎市内栗原地区は、大崎市内栗原地区が孤立した。大崎市内栗原地区は、大崎市内栗原地区が孤立した。

大崎市内栗原地区は、大崎市内栗原地区が孤立した。大崎市内栗原地区は、大崎市内栗原地区が孤立した。

03

災害時の支援体制について



》》ブロック社協等支援一覧

宮城県内社会福祉協議会における災害時相互支援協定に基づいて、大崎圏域、石巻圏域、登米圏域から8つの社協、宮城県社会福祉協議会、大崎市と姉妹都市である東京都台東区にある台東区社会福祉協議会から運営支援の協力を頂きました。皆様のご支援・ご協力に心から感謝申し上げます。

9月13日（日）～10月3日（土）		
圏 域	社協名	人数
宮城県	社会福祉法人 宮城県社会福祉協議会	24
大崎圏域	社会福祉法人 加美町社会福祉協議会	23
	社会福祉法人 色麻町社会福祉協議会	24
	社会福祉法人 涌谷町社会福祉協議会	30
	社会福祉法人 美里町社会福祉協議会	22
	社会福祉法人 石巻市社会福祉協議会	98
石巻圏域	社会福祉法人 女川町社会福祉協議会	20
	社会福祉法人 東松島市社会福祉協議会	15
	社会福祉法人 登米市社会福祉協議会	69
東京都台東区	社会福祉法人 台東区社会福祉協議会	18



大崎市社協イメージキャラクター
おおさきちゃん

≫ ブロック社協等支援一覧（内訳）

9月13日（日）		
圏域	社協名	人数
大崎圏域	加美町	1
	色麻町	1
	涌谷町	1
	美里町	1
石巻圏域	石巻市	5
県外		

9月14日（月）		
圏域	社協名	人数
大崎圏域	加美町	1
	色麻町	1
	涌谷町	1
	美里町	1
石巻圏域	石巻市	5
県外		

9月15日（火）		
圏域	社協名	人数
大崎圏域	加美町	1
	色麻町	1
	涌谷町	2
	美里町	1
石巻圏域	石巻市	5
県外		

9月16日（水）		
圏域	社協名	人数
大崎圏域	加美町	1
	色麻町	1
	涌谷町	1
	美里町	1
石巻圏域	石巻市	5
登米圏域		
県外		

9月17日（木）		
圏域	社協名	人数
大崎圏域	加美町	2
	色麻町	2
	涌谷町	2
	美里町	1
石巻圏域	石巻市	6
	女川町	1
登米圏域	登米市	5
県外		

9月18日（金）		
圏域	社協名	人数
大崎圏域	加美町	1
	色麻町	1
	涌谷町	2
	美里町	1
石巻圏域	石巻市	5
	女川町	1
登米圏域	登米市	5
県外		

>> ブロック社協等支援一覧(内訳)

9月19日(土)		
圏域	社協名	人数
大崎圏域	加美町	1
	色麻町	1
	涌谷町	2
	美里町	1
石巻圏域	石巻市	7
	女川町	1
	東松島市	2
登米圏域	登米市	5
県外		

9月20日(日)		
圏域	社協名	人数
大崎圏域	加美町	1
	色麻町	1
	涌谷町	2
	美里町	2
石巻圏域	石巻市	7
	女川町	1
	東松島市	2
登米圏域	登米市	4
県外		

9月21日(月)		
圏域	社協名	人数
大崎圏域	加美町	2
	色麻町	2
	涌谷町	2
	美里町	1
石巻圏域	石巻市	7
	女川町	3
	東松島市	1
登米圏域	登米市	8
県外		

9月22日(火)		
圏域	社協名	人数
大崎圏域	加美町	1
	色麻町	1
	涌谷町	2
	美里町	1
石巻圏域	石巻市	7
	女川町	2
	東松島市	1
登米圏域	登米市	4
県外		

9月23日(水)		
圏域	社協名	人数
大崎圏域	加美町	1
	色麻町	1
	涌谷町	2
	美里町	1
石巻圏域	石巻市	7
登米圏域	登米市	4
県外		

9月24日(木)		
圏域	社協名	人数
大崎圏域	加美町	1
	色麻町	1
	涌谷町	2
	美里町	1
石巻圏域	石巻市	4
	女川町	2
	東松島市	3
登米圏域	登米市	4
県外	台東区	1

9月25日（金）		
圏域	社協名	人数
大崎圏域	加美町	1
	色麻町	2
	涌谷町	2
	美里町	2
石巻圏域	石巻市	4
	女川町	2
	東松島市	1
登米圏域	登米市	9
県外	台東区	1

9月26日（土）		
圏域	社協名	人数
大崎圏域	加美町	1
	色麻町	1
	涌谷町	1
	美里町	1
石巻圏域	石巻市	4
	女川町	2
	東松島市	2
登米圏域	登米市	5
県外	台東区	1

9月27日（日）		
圏域	社協名	人数
大崎圏域	加美町	1
	色麻町	1
	涌谷町	1
	美里町	1
石巻圏域	石巻市	3
	女川町	2
	東松島市	1
登米圏域	登米市	5
県外	台東区	1

9月28日（月）		
圏域	社協名	人数
大崎圏域	加美町	1
	色麻町	1
	涌谷町	1
	美里町	1
石巻圏域	石巻市	3
	女川町	1
	東松島市	1
登米圏域	登米市	6
県外	台東区	2

9月29日（火）		
圏域	社協名	人数
大崎圏域	加美町	1
	色麻町	1
	涌谷町	1
	美里町	1
石巻圏域	石巻市	3
登米圏域	登米市	1
県外	台東区	2

9月30日（水）		
圏域	社協名	人数
大崎圏域	加美町	1
	色麻町	1
	涌谷町	1
石巻圏域	石巻市	3
登米圏域	登米市	1
県外	台東区	2

≫ ブロック社協等支援一覧(内訳)

10月1日(木)		
圏域	社協名	人数
大崎圏域	加美町	1
	色麻町	1
	涌谷町	1
	美里町	1
石巻圏域	石巻市	3
登米圏域	登米市	1
県外	台東区	3

10月2日(金)		
圏域	社協名	人数
大崎圏域	加美町	1
	色麻町	1
	涌谷町	1
	美里町	1
石巻圏域	石巻市	2
	女川町	1
登米圏域	登米市	1
県外	台東区	2

10月3日(土)		
圏域	社協名	人数
大崎圏域	加美町	1
	色麻町	1
	涌谷町	1
	美里町	1
石巻圏域	石巻市	3
	女川町	1
登米圏域	登米市	1
県外	台東区	1



04

支援物資・支援金等寄付者ご芳名



》 支援物資・支援金等 提供一覧

平成27年9月11日に発生した「平成27年9月関東・東北豪雨災害」における心温まる支援物資並びに支援金等を大崎市民の皆様をはじめ、全国各地の皆さまよりお寄せいただき、誠にありがとうございました。

なお、頂いた支援物資・支援金等につきましては、大崎市内において被害を受けられた方への支援及び本会が運営する施設等において、大切に使用させていただきました。

敬称略・順不同をご了承ください

各社会福祉協議会からのご支援 並びに支援金・支援物資

【宮城県内社協】

- ・社会福祉法人 宮城県社会福祉協議会
- ・社会福祉法人 仙台市社会福祉協議会
- ・社会福祉法人 石巻市社会福祉協議会
- ・社会福祉法人 気仙沼市社会福祉協議会
- ・社会福祉法人 岩沼市社会福祉協議会
- ・社会福祉法人 登米市社会福祉協議会
- ・社会福祉法人 東松島市社会福祉協議会
- ・社会福祉法人 大衡村社会福祉協議会
- ・社会福祉法人 色麻町社会福祉協議会
- ・社会福祉法人 加美町社会福祉協議会
- ・社会福祉法人 涌谷町社会福祉協議会
- ・社会福祉法人 美里町社会福祉協議会
- ・社会福祉法人 女川町社会福祉協議会
- ・社会福祉法人 南三陸町社会福祉協議会

【宮城県外社協】

- ・社会福祉法人 台東区社会福祉協議会
(東京都)
- ・社会福祉法人 湯浅町社会福祉協議会
(和歌山県)

個人・団体等支援物資・支援金

- ・佐々木 一
- ・一般社団法人 当別青年会議所
- ・生活協同組合コープこうべ
- ・Live Bar FANDANGO 代表 村上 隆彦
- ・みやぎ生活協同組合 理事長 宮本 弘
- ・南三陸町平成の森団地仮設住宅住民一同
- ・南三陸復興ダコの会
- ・南三陸町飲食組合
- ・特定非営利活動法人石巻復興支援ネットワーク
- ・竹ノ内・大江向親和会
- ・美里町南郷ボランティア友の会
- ・盛岡市医師会附属盛岡高等看護学院
盛岡准看護学院
- ・石巻・フィリピン「ハワックカマイ」
代表 高橋 リヤネット
- ・寒河江市中部地区民生児童委員協議会
- ・宮城いきいき学園仙南校
- ・ねまるべ遠野 代表 高宏 美鈴
- ・穀町商店街

その他、多くの個人、団体ボランティアの方々などからご支援・ご協力をいただき誠にありがとうございました。この場をお借りして深く感謝申し上げます。

》支援物資・支援金等 提供一覧

敬称略・順不同をご了承ください

個人・団体等支援物資・支援金

- ・愛知県ソフトバレーボール連盟
理事長 倉知 典裕
- ・寒河江市柴橋地区民生児童委員協議会
- ・気仙沼NPO／NGO連絡会
- ・西多賀市民センター 手しごと倶楽部
- ・特定非営利活動法人
せんだい・みやぎNPOセンター
- ・大阪工業大学学園校友会村本城北会支部
- ・京都府災害ボランティアセンター
- ・スプリームスターインターナショナル
アソシエーションジャパンゲンマセンター
- ・オンワードマエノ
- ・有限会社 柏工芸
- ・地域密着事業 センダイ交流団
エスケーコミュニケーションズ
渡邊 雄仁
- ・みやぎ生活協同組合 生活文化部
ボランティア担当 須藤 敏子
- ・片浦 一枝
- ・アドラージャパン
- ・矢吹町災害時ボランティアセンター
- ・あいおいニッセイ同和損保保険(株)

個人・団体等支援物資・支援金

- ・NPO法人 とうもんの会
- ・新沼 暁之
- ・丹波豪雨災害ボランティアチーム丹波組
- ・富士フィルムビジネスサプライズ株式会社
- ・芦屋市商工会
- ・(株)大塚製薬工場 仙台営業所
- ・村上 智美
- ・木村 直美
- ・秋山 智香子
- ・津波復興支援センター 代表 阿部 哲也
- ・井上 博之
- ・株式会社重松製作所
- ・NPO法人 ライフ・ボートプロジェクト
- ・高波 直美
- ・安西周三税理士事務所
- ・阿部喜商店
- ・日本災害支援機構
- ・株式会社 木の屋石巻水産
- ・世界トライアスロンシリーズ横浜大会組織委員会
- ・松谷 早苗

その他、多くの個人、団体ボランティアの方々などからご支援・ご協力をいただき誠にありがとうございました。この場をお借りして深く感謝申し上げます。

》支援物資・支援金等 提供一覧

敬称略・順不同をご了承ください

個人・団体等支援物資・支援金

- ・松井 春奈
- ・大崎市食品衛生協会 会長 佐々木 哲朗
- ・特定非営利活動法人 絆 J A P A N
- ・鶴町 雅子
- ・海をつくる会 高柳佳恵
- ・谷 純子
- ・小林 結花
- ・吉川 礁子
- ・チームひろしま 代表 大石 剛
- ・海を作る会 坂本 昭夫
- ・佐藤 亜希
- ・甘利 由紀
- ・後藤 祐子
- ・榊原 弘
- ・那珂市立第4中学校わかすぎ学園
PTA連絡協議会
- ・浅井 弘恵
- ・長尾 久恵
- ・秋山 哲也

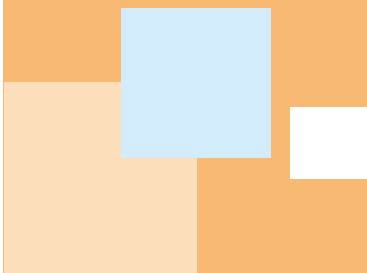
個人・団体等支援物資・支援金

- ・海をつくる会 佐藤 美佐子
- ・LoveSong大作戦 代表 竹之内 逸志
- ・由利 護
- ・社会福祉法人いわて育心会
- ・世界平和女性連合宮城第二連合会
- ・特定非営利活動法人東日本ネットワーク手にぎり隊
代表 石井 千鶴
- ・平成の森団地自治会
会長 畠山 扶美夫（南三陸町）
- ・小笠原 小百合
- ・島 和正
- ・ライオンズクラブ国際協会332-C地区
ガバナー石川 達雄

その他、多くの個人、団体ボランティアの方々などからご支援・ご協力をいただき誠にありがとうございました。この場をお借りして深く感謝申し上げます。

05

福祉的災害ボランティアセンターを
目指して



≫ 大崎市災害ボランティアセンターの取り組み

【おおさきスマイルプロジェクト】 ～高倉まごころ届け隊～

高倉小の小学生を中心に高倉矢目地区における個別訪問活動を実施し、災害ボランティア活動支援プロジェクト会議（支援P）の協力のもとに寄せられた「うるうるパック」を57世帯に配布させて頂きました。

行政区長さんから地域の災害の歴史や体験談などを聞き、被災した方々と子供たちがふれあう機会となった他、地元から学ぶ福祉防災学習となりました。



【おおさきスマイルプロジェクト】～古川南地域まごころ届け隊～

古川ボランティア連絡会・大崎中央高等学校・県内NPO団体等のご協力のもと、被災から3ヶ月が経過した12月の年の瀬に、新年を迎えるにあたっての困りごとや心配ごと、ご自宅の修繕状況などを伺うことで、災害ボランティアセンターの開所時にはあがらなかった課題や支援が行き届かなかった点などの確認も含め、古川南地域において被害のあったご自宅に対して、災害ボランティア活動支援プロジェクト会議のご協力のもと集まった物資「うるうるパック」を配布しながら一軒一軒訪問しました。また、活動終了後には、訪問結果をマッピングするとともにそれぞれのグループで得た情報を関係機関と共有しました。



うるうるパックとは…

被災者が必要とする生活物資等を企業等から頂き、ボランティアがパック化した上で、被災地の災害ボランティアセンター等を通じて地元の自治会や民生委員らとともに「お見舞い品」として訪問配付する活動です。

この取り組みは、単に被災者に物資を提供するということではなく、これまでの被災者支援の経験に基づく本当に必要な物資であるとともに、被災者一人ひとりが抱える暮らしの課題について直接お聞きすることができます。

≫ 大崎市災害ボランティアセンターの取り組み

【ありがとう活動～喫茶サービス～】

大崎市古川地域を中心に平時よりボランティア活動を展開している古川ボランティア連絡会より、「力仕事は難しいが、大崎市の為に活動して頂いたボランティアさんになにか恩返しをしたい」という申し出により、この活動に繋がりました。

暑い中、活動を終えてセンターに戻るボランティアの方々へ感謝の言葉と飲み物の提供により、多くのボランティアさんの笑顔が生まれました。



【大崎市社協災害派遣福祉・介護チーム（大崎市社協DCAT）】

本会では、介護や障害福祉サービスなど多くの事業所を運営しており、それらの業務に携わる専門職も数多く在職しています。そうした専門職が有する知識や技術を、特に災害が発生した際の要援護者への支援に生かすことが、社会的使命の一つとして考え、平成25年に「大崎市社協災害派遣福祉・介護チーム(大崎市社協DCAT)」を発足しました。

今回の災害においては、発災直後の9月12日に避難所などに3チーム9名体制で派遣し、被災者の状況確認及び福祉的なニーズ調査を実施しました。

また閉所するにあたっては、大崎市社協DCATと古川地域包括支援センターが連携して「3チーム6名体制」で、個別訪問による福祉調査・声掛け活動などを10月6日までの計3日間実施し、DCATが精査したその結果は災害ボランティアセンターが閉所した後も、「社協古川支所地域福祉担当」「民生委員児童委員協議会」「地域包括支援センター」などに繋ぐことで、現在も継続的な支援活動を実施しています。



「元気出して」「何でも言って」



溢れかたの心もったメッセージカード



被災者にカードを手渡す児童たち

豪雨被災者励ます
高倉小児童らメッセージ

大崎市古川で、被災者への励まし活動が行われた。高倉小児童らが、被災者へメッセージカードを手渡した。児童らは「元気出して」「何でも言って」と、励ましの言葉を伝えた。被災者からは「子どもたちの元気な声、本当に励みになった」と話した。

高倉小児童らは、大崎市古川地区の被災者へ、メッセージカードを手渡した。児童らは「元気出して」「何でも言って」と、励ましの言葉を伝えた。被災者からは「子どもたちの元気な声、本当に励みになった」と話した。

2015年9月27日付
こどもタイムス

浸水被災地でボランティア

仙台育英高「甲子園準V」3年生部員が古川西荒井地区に



量運ぶ平沢選手（右）と佐藤将太選手

水吸った重い畳など運ぶ
佐藤投手や平沢選手「まさか、手伝いはありがたい」
U18W杯の主力も

水害被害を受けた大崎市古川西荒井地区で、全国高校野球選手権大会で優勝した仙台育英高校の3年生が12日に訪れ、水浸かった畳を運ぶなど片付けを手伝った。

被災地支援に訪れたのは、18歳以下ワールドカップ日本代表としても活躍した佐藤将太選手と、平沢選手。平沢選手は、水浸かった畳を運ぶなど片付けを手伝った。佐藤選手は、水浸かった畳を運ぶなど片付けを手伝った。

2015年9月15日付

06

災害ボランティア活動の振り返り



災害ボランティアセンターの活動風景

平成27年9月12日～平成27年9月19日



災害ボランティアセンターの活動風景

平成27年9月20日～平成27年9月24日



≫ 災害ボランティアセンターの活動風景

平成27年9月25日～平成27年10月3日



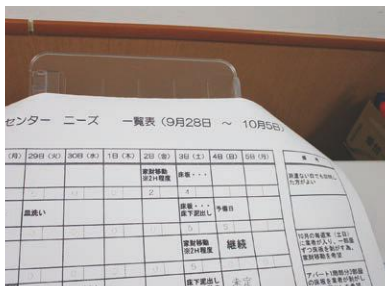
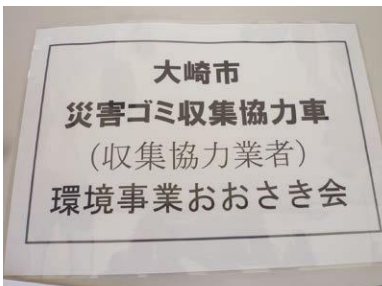
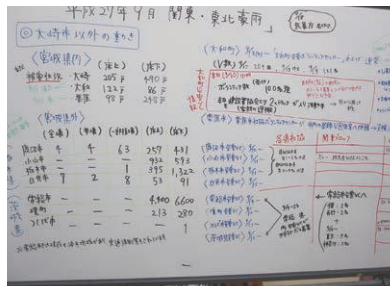
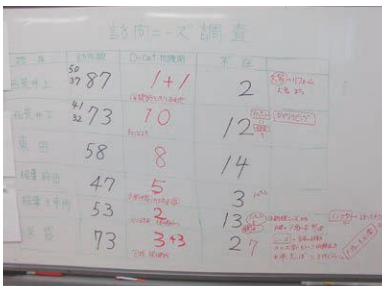
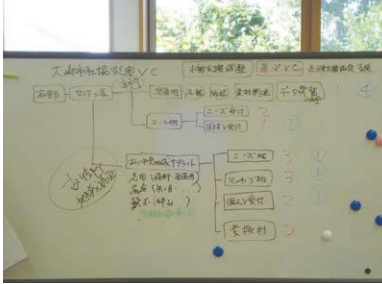
≫ 災害ボランティアセンターの活動風景

■ 大崎市災害ボランティアセンター 閉所式



災害ボランティアセンターの活動風景

大崎市災害ボランティアセンター 運営本部



》ご支援・ご協力頂いた皆さんからの声

9月11日未明の発災当日より、県内外より多くの方々が、大崎市に駆けつけて頂きました。運営支援においても、ボランティア活動においても、これまでいつもお世話になっている方、顔見知りだった方、はたまた初対面の方、本当にたくさんの方々や団体・企業の皆さんと繋がりを持たせて頂きました。

ここでは、当時を振り返りながら活動内容や支援者・協力者からみえた大崎市災害ボランティアセンターについて、お話を伺いすることができましたので、ご紹介させていただきます。

団体等写真

団体・会社名 _____ 役職 _____ 担当者氏名 _____

団体・企業紹介文 ①運営支援・ボランティア活動についての感想
内 容 ②被災した地域、または被災された方々へのメッセージ



公益社団法人 おおさき青年会議所
Junior Chamber International OSAKI

直前理事長 伊藤 真 様



青年会議所(JC)は「明るい豊かな社会」の実現を同じ理想とし、次代の担い手として責任感をもった20歳から40歳までの指導者たらんとする青年の団体です。

120以上の国と地域、さらには国内に697のJCがあり、「社会と人間の開発」を事業目標として掲げて活動しております。おおさきJCは、おおさき地域(大崎市・加美町・色麻町・美里町・涌谷町)の1市4町を主な活動エリアとし、まちづくり・ひとづくりを進めています。

※詳しくは：www.osakijc.net/

- ① 今回、社会福祉協議会の皆さんと協力して古川南サテライトの運営支援をさせていただきました。JCとしては東北地区内の77青年会議所に呼びかけ、ボランティアに連日駆けつけてもらいましたが、豪雨災害ではニーズが日々変化するために受け入れ体制を確立することの難しさを痛感いたしました。

しかし、「困った時はお互い様」とボランティアとして多くの皆さんに駆けつけていただいたことには、感謝の言葉しかありません。ありがとうございました。

今回の災害において、社協の皆さんが日々のニーズに対して丁寧に対応し、被災者に寄り添っていかうとする姿を見て、大変勉強になりました。

- ② 被害に遭われた全ての皆様に対しまして、改めて心よりお見舞い申し上げます。私たち公益社団法人おおさき青年会議所は、おおさき地域の青年団体として今後も皆様と『共に生きる』覚悟をもって活動してまいります。

同じ地域に生きる者として今後も災害に負けることなく一緒に頑張っていきたいと思います。

》ご支援・ご協力頂いた皆さんからの声



日本赤十字社 宮城県支部
Japanese Red Cross Society

組織振興課 奉仕係長 井上 嘉秀 様



赤十字防災ボランティア（看護師）が「右眼に泥が入った」と訴える災害ボランティアに応急手当

赤十字は、アンリー・デュナン（スイス人：第1回ノーベル平和賞受賞者）が提唱した「人の命を尊重し、苦しみの中にいる者は、敵味方の区別なく救う」ことを目的とし、世界190の国と地域に広がる赤十字・赤新月社のネットワークを生かして活動する組織です。

日本赤十字社はそのうちの一社であり、西南戦争における負傷者救護で初めての活動を行なって以来、国内外における災害救護をはじめとし、苦しむ人を救うため幅広い分野で活動しています。

※詳しくは：www.miyagi.jrc.or.jp/

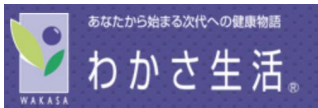
- ① 当支部の防災ボランティアは東日本大震災以降、“赤十字色のあるボランティア活動の展開”を目指し、年に数回の研修会で自己研鑽に努めております。

今回の災害で、大崎市社会福祉協議会様が、私どもの活動“災害ボランティアの皆様が安心安全に活動するためのサポート支援（マスク等衛生資材配布、巡回による注意喚起）”に賛同・協同くださり、その結果、災害ボランティアの方より「赤十字が見守ってくれているので、非常に有難く心強い」との言葉をいただけたことは感謝にたえません。

我々の目指すべき方向性の1手段として価値のある活動を展開させていただき、心より感謝申し上げます。

- ② 被害に遭われた皆様に、心よりお見舞い申し上げます。災害が絶えない昨今、長期に亘り被災された皆様に寄り添った活動（こころのケアなど）の展開が求められるケースも少なくありません。

今後も、当支部は各関係団体と連携を密にし、“赤十字の使命”を全うすべく、事業の推進に努めてまいります。ご理解の程、よろしく願いいたします。



東北コミュニケーションズ 支社長 作間 奈穂子



本社は京都にあり、『ブルーベリーアイ』というサプリメントを主力商品とした健康サポート企業です。

東北支社は、東日本大震災をきっかけに若者の雇用支援として2012年6月に設立した部署です。

※詳しくは：

www.wakasa.jp/



- ① 水害を受けられた家屋の1軒1軒に、たくさんの思い出が詰まっていることを実感しました。その思い出を壊さないよう、思い出を少しでも再現できるよう心をこめてお手伝いをさせていただきました。最初は、水害を受けられた方のお家にお邪魔することには抵抗がありました。なぜなら、どうやって励ませればいいのか、なんて話しかけたら良いのかが分からなかったからです。しかしながら、そんな心配はすぐに吹き飛びました。どの家に行っても、皆さんが前向きで、私たちにたくさんの感謝の気持ちを表現してくれたからです。お役に立てたかは分かりませんが、貴重なご縁をありがとうございました。

- ② 私たちは、東日本大震災をきっかけに『あたりまえ』という当たり前のことを大切にしています。その想いから微力ではありますが、みなさんのお住まいの地域にボランティアとして行かせていただきました。そして、温かく迎え入れていただき本当にありがとうございました。

みなさんに『あたりまえ』の毎日が続くことを願っています。

≫ 大崎市災害ボランティアセンター活動報告会

大崎市災害ボランティアセンター(以下災害VC)閉所から約2ヶ月後、鹿島台の県介護研修センターを会場に、「関東・東北豪雨災害ボランティアセンター活動報告会」を開催しました。災害VC運営に携わった県内外の社協職員やボランティア87名が参加し、災害VC運営時の活動報告や意見交換をし、今後の災害時に備えた取り組みについて協議しました。

はじめに、大崎市社会福祉協議会本田民夫常務理事兼事務局長より大崎市災害ボランティアセンターの活動報告を行い、災害ボランティア活動支援プロジェクト会議(支援P)の榎原英文幹事より「社協が災害時に果たす役割について～平常時における地域福祉・ボランティア活動を踏まえて～」と題した基調講演をいただきました。その後、「運営・総務」「災害VC機能」「サテライト運営」「訪問調査活動」の4つのセクションに分かれ、①住民に寄り添った支援ができたか、②災害時前の平常時の取り組みは活かされたか、③社協間や他団体などとの『つながり』を支援に活かされたかの3点を切り口に各グループで情報・意見交換を行いました。

本報告会を通じて、日ごろの『つながり』や『地域づくり』が災害時に活かされることを再認識し、活動を振り返りました。



①運営・総務部門

「住民に寄り添った支援」ができたか？

本会職員と「災害時相互支援協定」により派遣していただいた社協職員が東日本大震災経験者であり、また日頃から地域福祉活動に携わっていることもあり、災害規模などは違えど、地域福祉の視点に沿った活動に繋がったと考えられます。

被災住民に対する支援物資の受入れ・提供、義援金の受入れなどは行政が主に行っていたが、社協が設置する災害ボランティアセンターとして、これらの受入れも必要だったのではないかと考えられますが、一方で、受入時、混乱を来すことも想定されたため、住民に対するものは行政へ、災害ボランティアセンター運営に対するものは社協ということで窓口を棲み分けし一本化したことは良かったのではないかと考えられます。

本会のホームページや被災地域の行政区長さんなどのご協力を得ながら、災害ボランティアセンター等の情報提供を行っていましたが、その内容が、ボランティアやマスメディア向けの情報となっており、被災住民が最も必要となる支援情報の提供ができなかったのではないかと考えられます。今後、行政の災害対策本部との連携を密にし、被災者支援情報を随時、災害ボランティアセンターとしても提供していくことが必要であると考えられます。

「災害前の平時の取り組み」は活かされたか？

本会では東日本大震災以降、「防災計画」策定、「災害派遣福祉・介護チーム」設置、「災害時相互支援協定」締結などに基づき、大規模災害時における支援体制の充実強化、災害支援活動を担う派遣職員の養成研修や体制強化、資器材及び防災倉庫等の整備に積極的に取り組んできたものの、このたびの災害に際し、まだまだ課題として残った部分があることを痛感いたしました。それは、センター運営に携わる職員の配置、事前研修などや災害時相互支援協定により人の面では非常に助かったものの、運営に係る経費などの具体的な内容の取り決めが無かったこと、また、行政からの要請に基づくセンター設置にも関わらず、行政との協定がなく、センターの設置場所や運営経費、資器材等の提供等の事前の取り決めをしていなかったこと、そしてまた、車輻・資器材（特に事務機器類、情報連絡機器類）や運営準備金等などです。今後、これら課題を解決していくとともに、日頃から行政の各担当課（社会福祉課、防災安全課、環境保全課等）との連携と併せ、センター運営に際し、支援協力を頂ける民間企業・団体とのつながりが必要と考えられます。また、支援金、支援物資などの受入れ方法、運営経費に係る財源の確保（準備金や行政補助金）、情報提供、通信手段としてのSNS（フェイスブック・ツイッター・LINE等）の活用方法などの検討の必要があります。

「つながり」を支援に活かされたか？

東日本大震災後に県内社協で締結をした災害時相互支援協定により、センター運営に関わる必要な人数や支援内容等の要望に対し、いち早く県社協を始めとする近隣市町社協からの支援とともに、震災時、本会職員の沿岸部社協派遣により知り合ったボランティアさんなどからも支援をいただきました。また、大崎市の姉妹都市である東京都台東区社協からも職員の派遣協力をいただきました。このことは、東日本大震災経験者であり、また日頃から地域福祉活動に携わっている職員であることもあり、災害規模などは違えど、地域福祉の視点に沿った支援に繋がったと考えられます。

また、支援金や支援物資などにおいても、日頃の社協活動とのつながりをもつ関係者はもちろんのこと、東日本大震災でお世話になったことによる恩返しといった意味でのつながりもあり、被災住民の支援にあたるセンター運営に活用させていただきました。

②災害ボランティアセンター機能部門

「住民に寄り添った支援」ができたか？

災害ボランティアセンターとして、被災者からのニーズとボランティア希望を受け付ける【コール班】、ニーズとボランティアを繋ぐ【マッチング班】が機能としてありますが、そのほか全体的なマッチングとして総務・サテライトとも繋がる連絡調整が大切だったと感じています。

住家に対する支援を原則としながら生業と思われるニーズに対しての説明やボランティア希望者への対応など、配慮を欠いた対応から相手に不快な思いをさせたこともありました。

センター本部を活動の拠点としながらもサテライトでの活動状況、被災地域でボランティアとともに行動しながら被災住民に寄り添う現地オペレーターの活動状況に加え、ボランティアの方々などすべてと繋がっていくことが「住民に寄り添う」と気づいたのはセンターの閉所が見えてきた頃でした。

「災害前の平時の取り組み」は活かされたか？

大崎市社協では①災害ボランティアセンター運営マニュアルを平成24年度に整備、②災害ボランティアコーディネーター育成研修（職員対象）を平成25年度より開催、③資器材等の保管を目的に防災倉庫を古川地域宮沢地区に平成25年度に設置するなど、災害ボランティアセンター機能の充実に努めてきました。

- ①東日本大震災（地震）、本部直営のセンター運営を想定していたことから、今回は水害であること、サテライト方式であったことにより、ニーズ票等の帳票関係や組織内での情報共有にマニュアルが活かせず、今後見直しが必要と思われます。
- ②これまで32名の職員が受講してきたが実施年数も短期間であり、今回の運営実績から大崎地域社協職員を対象としての研修開催も必要と思われます。（日頃からの連携）
- ③資器材等については、既存設備品の他、宮城県社協や災害ボランティア活動支援プロジェクト会議（支援P）、県共同募金会、近隣社協の他、多くの方々からの寄贈等により不足することなくボランティア活動に役立てられたと思います。

「つながり」を支援に活かされたか？

平成26年6月に締結された災害時支援協定の発動により、県社協並びに県内社協からの支援を受けたことで、各セクションに十分な人員配置をすることができました。一定期間で入れ替わる応援職員間とも毎日朝夕開催されるミーティングや会議記録によりセクション内での情報共有はできていたと思います。

また、古川地域で活躍する古川ボランティア連絡会の協力により、ボランティアに対する支援として「ありがたう活動」を展開できたことは、被災した大崎市の為に駆け付けて頂いたボランティアに対する数少ない感謝の気持ちを伝える機会にも繋がったと思います。

③ サテライト運営部門

「住民に寄り添った支援」ができたか？

沿岸部の応援社協職員から、いわゆる「泥を見ずして、人を見る」という視点が全体に伝わり、単に片付けをこなしていくのではなく、被災者の心によりそった支援を心がけることができました。被災世帯のニーズや課題を伺った訪問調査活動や『うるうるパック』とともに思いやりの心を届けた『まごころ届け隊』でも、1軒ずつ顔を合わせながら丁寧な声かけや聞き取りにより、被災者の心をいたわりながら悩みごとや困りごとを伺うことができたと思います。なかには被災に伴って精神的ダメージや体調不良、近隣トラブルなどを抱えた世帯もあり、ボランティアを派遣しながら専門の窓口につなぐ等の対応を行いました。

「災害前の平時の取り組み」は活かされたか？

突然の水害発生により混乱が生じたことから、これまでの災害研修等の成果を十分に発揮することができない部分もあったが、災害発生後すぐに被災地域に出向いて行政区長さんや民生委員さんと連携できたことや必要な資器材の準備、被災世帯への災害ボランティアセンター開設の周知などは、東日本大震災の経験や職員研修により比較的迅速に取り組むことができたと思われまます。また、地域からの要請で防災訓練や防災研修に職員を派遣してきたことは、多少であっても地域の防災力・福祉力向上につながることから、今後も継続して地域に出向いていきたい。

「つながり」を支援に活かされたか？

社協主催の研修等を通じた各種団体とのつながりづくりや地域の防災事業に出向き、地域とのつながりづくりを進めてきたこともあってか、今回の災害ボランティアセンターに、青年会議所の協力が得られたことや被災地域の行政区長さんと連携し支援対応ができたと思います。

特に、矢目サテライトでは、支援の必要度が高い世帯から順に、必要な量のボランティアを派遣するなどの効率的な被災者支援ができたのは行政区長さんとの連携によるものであり、社協と行政区長さんのつながりがあったからと思われまます。今後も継続して各方面とのつながりづくりを進めていくことが大切であると痛感しました。



④訪問調査活動部門

「住民に寄り添った支援」ができたか？

災害ボランティアセンター（以下災害VC）支援と並行して、福祉型災害VCとして訪問調査から住民の福祉的ニーズの把握と復旧ニーズ（災害VC）の取りこぼし防止を心がけ、訪問調査活動を進めてきました。訪問調査活動では、被災世帯700軒を対象にローラー作戦を実施し、福祉的ニーズの把握と災害VCの活動状況や支援の案内などを進め、その中でも訪問中に気になる世帯（福祉的ニーズ、専門機関へのつながりが必要な世帯）については、大崎市社協DCAT（福祉専門職チーム）へつながり、再度訪問調査を重ねて行きながら、地域での関わり支援や専門機関での支援へとつなげながら災害VCと連携を図り、住民に寄り添った支援（訪問調査）ができたと思います。しかし、訪問調査を行う側として、災害VCサテライトごとにローラー作戦での訪問調査を実施したため、訪問調査の視点（地域福祉の視点、災害VCの視点）を共有化することが大事であるが、共有し開始することができてなかったことが挙げられます。しかし、応援をいただいた社協の方々は、日頃から相談支援や地域福祉活動など実践者の方々だったため、打ち合わせ等で情報共有を図れたが、課題として、訪問調査に関わる視点やフォーマットなどの整備も必要でありました。

災害VC閉所後、3ヶ月が経過した時点で、地元ボランティア連絡会の方々や学生ボランティアの協力を得ながら、訪問調査で伺った700世帯に対して、まごころ届け隊を結成し、日用品等の物資をお渡ししながら、その後の様子や災害VCのニーズ把握を目的に実施し、地域との「つながり」づくりを進めるとともに、インフォーマルな支援へとつなげて、サロン活動や住民交流など支援も合わせて進めています。

「災害前の平時の取り組み」は活かされたか？

古川地域は、162行政区と大崎市内では人口や世帯数など大きい地域であり、平成25年度から本会古川支所では、地域のキーパーソンとの関係づくりや地域支援など、スムーズに顔と顔の見える関係づくりが出来るよう古川支所職員の「地区担当制」を設け、進めている最中での災害となり、今回の被災地区のキーパーソン（行政区長、民生委員）との関わりは薄かったのが現状でした。しかし、被災地区のキーパーソンと状況把握や情報共有など重ねていくにつれ、連携を図った災害VC・サテライトの支援活動や訪問調査活動など共有しながら取り組むことができたと思います。

災害前の平時の取り組みは、活かすことが出来なかったが、今回の豪雨災害を通じてより顔の見える関係づくりを進めていきたい。

「つながり」を支援に活かされたか？

被災地区のキーパーソン（行政区長・民生委員）とのつながりは、災害VCの運営や支援活動の中から深まり情報共有や支援に活かすことができた。また、ローラー作戦や訪問活動など応援社協の方々には、地元社協以上に支援をいただけたことは、これまでの「つながり」があったからこそと思います。

むすびに

社会福祉法人
大崎市社会福祉協議会
常務理事兼事務局長
本田 民夫



東日本大震災で、大津波という水塊の威力と破壊力の凄まじさを思い知らされたが、大崎市内陸部での短時間降水による中小河川氾濫がこれほどの甚大な被害を及ぼすとは思っていなかった。

昭和61年8月5日の鹿島台豪雨水害以来の大被害であり、体験したことの無い初めての「大雨特別警報」が発令され、鳴瀬川水系の渋井川・渋川・名蓋川の3河川9ヶ所が破堤、695棟が一夜にして床上・下浸水や多くの貴重な家具家財・車に浸水し、さらに刈取り目の水稲など農産物に大きな被害が被ってしまった。

大崎市からの要請を受け4年前の大震災に続き2回目の災害ボランティアセンターを23日間開設、延べ1,242名人のボランティアと団体を受け入れ、それぞれの罹災者宅に派遣しました。

大崎市内外の団体・企業からの支援や鹿児島県から来られたボランティアさんをはじめ多くの方々に懸命な奉仕を頂き、改めて感謝を申し上げます。

さらに、県内社協の災害時相互支援協定により、大崎圏域4社協と石巻・登米圏域4社協からの運営支援、加えて東京都台東区社協からも支援をいただき、延べ職員343人の職員の皆さんから支援を頂きました。

誠に心強く、毎日のセンター運営が適切に行われ、何のトラブルもなく、整然と行われたことに感謝を申し上げます。



今後、このような災害が県内で発生した際には、大崎市社協は率先して支援を行っていく事を皆が強く心に刻んで、10月3日、ボランティアセンターを閉所しました。

多くの皆様の支援・応援に深く感謝を申し上げます。